

科目	生活行動援助技術演習				
時間数	1単位 30時間	授業方法	講義、演習	授業時期	1年
講師名	③宮崎美佳※ ③藤田景子				
実務経験	③看護師(医療機関)				
ねらい	入院中の対象の日常生活行動をイメージできる事例を作成。生活行動援助技術で学んだ援助技術を組み合わせて、援助場面(寝衣交換、洗髪、バイタルサイン測定等)を想定して、実践的な演習を行う。看護過程の学びを活かして、情報の整理・分析、計画、実施、評価できる。				
目標	<p>提示された共通事例において</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グループ活動を通して、自己の役割を全うするとともに、グループ間で協力し合うことができる (基礎看護学実習Ⅰまでに)</li> <li>2. 対象の状況を考慮した援助を計画することができる</li> <li>3. 対象の状況を考慮し、援助を実施することができる</li> <li>4. 実施した援助を振り返ることができる</li> <li>5. 振り返ったことを、次の援助の計画に繋げることができる (基礎看護学実習Ⅱまでに)</li> <li>6. アセスメントしながら必要な援助を考えることができる</li> <li>7. 対象の状況を考慮した、看護計画を立案することができる</li> <li>8. 退場の状況を考慮し、看護を実施することができる</li> <li>9. 実施した看護を SOAP で振り返ることができる</li> </ol>				
授業計画					
回	内容				
1	前半演習ガイダンス 事例紹介 情報を整理し、必要な援助とその目的を考える				
2	事例に基づいてアセスメント及び援助計画立案				
3	事例に基づいて技術演習及び、援助計画の追加・修正 //				
4	実技テスト:援助計画に沿って援助の実施・報告				
5					
6	3年生による指導演習 (基礎看護学実習Ⅰで受け持った事例をもとに講義・演習)				
7					
8	後半演習ガイダンス				
9	基礎看護学実習Ⅰの事例で立案した看護計画(看護過程の講義で立案)を用いて、必要な観察や技術の演習				
10	受持ち患者のプレゼンテーション準備				
11	受け持ち患者のプレゼンテーション実施(患者情報の共有)				
12					
13	看護計画に沿って再現場面の練習(看護計画の追加・修正まで)				
14	実技テスト:看護計画に沿って看護の実施(看護場面の再現)・報告				
15					
評価方法	その時間数の3分の2以上の出席者に限り受験資格を与える。 前半の演習で50%、後半の演習で50%及び平素の学習状況を総合して評価する。 60点以上を及第点とする。				
教科書	基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ:医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 第4版:医学書院、デジタル教材				